

ひんからかわらばん

第2号
発行 2014年2月24日
九州地区
東日本大震災対策小委員会



講演「被災地の経験から

見えてきたこと」

2013年11月11日、菅井裕行さん（宮城教育大学）をお迎えして、東日本大震災報告集会を行いました。講演を通じて教えられたこと、考えたことを、新堀真之 東日本大震災対策小委員会委員長の報告でお伝えします。

◆はじめに―想像力の限界

以前ある集会で、仙台北教会・小西望さんが語られた一言が、今でも胸に残っています。あの3月11日、教会付属の幼稚園で過ごしていた小西さんは、ようやく地震が静まり、園児たちの無事を確認したとき、思わず胸を撫で下ろしたといいますが、

「ああ、子どもたちに大きな怪我がなくてよかった。」
けれども後々わかったのは、自分分が安堵したその時刻、沿岸部の町

そのことだったからです。

◆固有の経験

菅井裕行さんをお招きして行われた、東日本大震災報告集会「被災の経験から見えてきたこと―東日本大震災と障がいのある子どもたち」と題された菅井さんのお話も、まさに自分の「ちつぽけな想像力」を遥かに超える内容でした。

津波迫り来る僅かな時間、身体に障がいを持つ子どもと小さな赤ちゃんを前に、同時に二人を抱えきることもできず、涙を流しながら赤ちゃんだけを抱き、避難していったという一人の母親のこと。

・スペースの限られた不慣れな避難所生活の中、体を強張らせ、不安やストレスで疲弊する、障がいを抱える子どもたちのこ

と。

語られた内容は、これまで私の価値観では到底思い描くことのできない、生々しい現実の数々でした。同時に、「被災者」／「被災地」／「東北」という言葉を用い、本来一人ひとり固有であるはずの被災経験を、安易に“一括り”にして捉えてきた自分の有り様を、深く反省させられたのです。

◆日常の関係性

菅井さんはまた、地域における日常的なつながりの大切さを強調されました。そこにとどのような人が住んでいるのか？ 各家庭・個人のニーズはどこにあるのか？ 密接な関係性・情報共有こそが、緊急時にあって命を助けていくのだと。その言葉はまた、広く「教会のあり方その

もの」を問う言葉ともなるでしょう。地域のこと、共に暮らす人々のことについて、私たちはどれほど知り、あるいは知られているだろうか。多くを考えさせられます。

◆さいごに

今回、菅井さんをお招きした背景には、梅崎浩二議長からのご推薦という経緯がありました。小学生時代からのご友人、かつ宝塚教会で同日に受洗されたという深い関係のお二人。梅崎さんからのご紹介の通り、真摯に事柄に向き合われるお人柄と、力の宿った言葉に、たくさんものをいただきましたことを感謝いたします。

日々移り変わる被災の現状を共有するため、何より「おのれの想像力」を鍛え上げるため、私

たちはこれからも“生きた言葉”に触れる時を持ちたいと願います。東日本大震災対策小委員会では、今後同様の「報告集会」を企画しますので、覚えて参加下さい。



講演中の菅井裕行さん



ボランティア報告

佐藤クニ子さん

(三重教会)

今回のボランティアへの参加に、多くの方々にお祈りと見守りをいただき、感謝いたします。

仙台への道は、主の導きを強く感じて参加いたしました。ただ、この年齢でかえってご迷惑をおかけするのではないかと案じていました。また、2年半の時間が過ぎている事にも気後れを感じていました。

降り立った仙台空港自体、車も飛行機も流され被災していました。報道された映像からは想像できないほどの広さと、被災された人々と同じ数の、大変なドラマがあることを再度知りました。

実際に参加したワークの日々は、本当に地味で被災者の方々に寄り添う活動でした。ワークに向かった現地では、カメラを向けることは駄目で、ワークの姿勢も、してあげているのではなく、お手伝いをさせていただくとの気持ちで接してほしいとのことでした。朝の祈りに始まり、要望された必要な場所に参加者の人々の希望を募って派遣して

いました。割り振りも強制ではなく出来る人が出来る場所で参加しました。50年ぶりに乗った自転車の体験は、本当にハードでしたが、多くの人に支えていただきました。

拠点の支援センターエマオの活動は、地元の方に深く信頼されました。本当に短い期間でしたが、被災地の方々とお話をして共に過ごす事が出来たことを感謝いたします。荒浜や閑上(ゆりあげ)地区のフィールドワークに参加し、過酷な体験と被害を見て言葉が失い涙が止まりませんでした。でも、そこから気丈に前を向いて活動している人々に出会いました。

エマオの素敵なスタッフに出会い、共にワークに参加した多くの若者の方々に出会いました。また、宿泊や食事で7日間近隣の教会の方々に支えら感謝でした。被災地の方々が『震災を忘れないでほしい』と活動をしている姿も印象的でした。

被災した上に、今なお多くの困難が、又、難しい今後の生活の事が山積みされています。九州教区の方から、今後の支援について要望を聞いてきてほしいとの事でした。エマ

オのスタッフの方から人材を送ってほしいとの声を聞きました。多くの若人が支援に訪れていた夏休みの期間が過ぎると、ボランティアの人数が少なくなると思っています。大分からは本当に遠い東北の地ですが、今も被災地の方に寄り添って活動をしているエマオの方の切なる要望だと思えます。

今回のボランティア参加を覚えて、多くの方にお祈りいただき感謝いたします。全ての事を、主に守られて過ごす事が出来たことを感謝します。簡単ですがご報告いたします。在主

(2013年8月下旬派遣)



支援活動なう

九州に滞在いただきました。◆3月11日、東日本大震災発生から3年にあわせ、「東日本大震災3周年追悼記念集会」を行います。

◆現在第4次被災地ボランティア派遣期間中です。(2014年3月31日まで) この期間に、東北教区被災者支援センターに1名派遣、3

月にもう1名を派遣の予定です。◆東日本大震災報告集会「スローワーク」これからの被災支援」(講師：佐藤真史さん(東北教区被災者支援センター・エマオ専従スタッフ))を2月24日、大分教会を会場として開催しました。

また、合わせて被災地の教職と家族の保養プログラムとして、佐藤さんご一家に2月19日から25日まで

◆今年度、これまでにお寄せいただいた支援献金は総額903,606円です(2月15日現在)。

尊い献金に感謝いたします。

また、合わせて被災地の教職と家族の保養プログラムとして、佐藤さんご一家に2月19日から25日まで



第4次被災地ボランティア募集 若者のみならず様々な賜物を求む!

派遣先: 東北教区被災者支援センター (仙台市)

派遣期間: 各自でお決め下さい。

(ただし 3日以上ワーク可能な方)

派遣補助: 教区より一人5万円

作業内容: 外ワーク、仮設住宅での活動、こどもプログラム、夕食ボランティア等

お問合せ: 委員長 新堀真之

(香椎教会 092-661-3419)

詳しくは募集要項をご覧ください。



支援献金をお寄せください。

お寄せいただいた献金は、上記のボランティア派遣や、被災教会の直接支援、被災教区の被災者支援活動への献金、教区内での報告集会など様々な形で用いています。「小さなことでも結構です。息の長い活動をお願いします」と現地の方々から求められています。遠方の九州から、被災された方々と共に歩む活動を継続するために、今年度もどうぞ献金をお寄せください。